

平成28年6月吉日

各位

一般社団法人 J C 総研
〒162-0826
東京都新宿区市谷船河原町 11 番地
飯田橋レインボービル 5 階
電話：03-6280-7254

一般社団法人 J C 総研
第 48 回公開研究会について（ご案内）

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃 当研究所の事業につきまして格別のご指導・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当総研では協同組合研究誌『にじ』2016年秋号にて「協同から連帯へ～協同組合と社会的経済」をテーマに特集を企画しております。その前段として協同組合研究者・実践家等との間で幅広く意見交換し議論を深めるため、下記のとおり公開研究会（第48回）を開催することとしました。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、何卒ご出席賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. **開催日時**：平成28年7月9日(土) 13:00～17:00
2. **開催場所**：明治大学リバティータワー8階1083号室
3. **研究課題**：「協同から連帯へ～協同組合と社会的経済」
4. **報 告**：
 - ・第1報告「連帯の理念・仕組みの類型」（仮題）
報告者 津田 直則 氏（桃山学院大学 名誉教授）
 - ・第2報告「東海三県における地域と協同活動の持続可能な発展をめざして」（仮題）
報告者 向井 忍 氏（NPO法人 地域と協同の研究センター 専務理事）
 - ・第3報告「3.11から5年半、協同組合間協同とともに歩んだ福島—地産地消ふくしまネットから」（仮題）
報告者 林 薫平 氏（福島大学 特任准教授）
5. **参集範囲**：協同組合運動の研究者、協同組合・関係団体の役職員等
6. **事務局**：長谷川誠司 tel：03-6280-7287 Eメール：hasegawa@jc-so-ken.or.jp
伊藤 辰代 tel：03-6280-7229 Eメール：t-ito@jc-so-ken.or.jp

以上

・ **第1報告「連帯の理念・仕組みの類型」(仮題)**

報告者 津田 直則 氏 (桃山学院大学 名誉教授)

(報告内容 (予定))

連帯という概念を、理念並びに仕組み・システム法制度に分類し、それらにあてはまる世界各国の具体例を入れ、日本のケースの特殊性を指摘する。取り分け、経済体制としての社会的経済論を勘案しつつ、連帯とは何かという点も含めて議論していきたい。その中で、理念・価値と制度・システムの仲介をする役割を連帯概念に担わせたい。

・ **第2報告「東海三県における地域と協同活動の持続可能な発展をめざして」(仮題)**

報告者 向井 忍 氏 (NPO法人 地域と共同の研究センター 専務理事)

(報告内容 (予定))

地域と協同の研究センターは、地域における協同や協同組合についての調査・研究、研修・交流などをすすめるために、東海の生協が呼びかけて1995年につくった研究組織である。2000年にNPO法人となり、さらに幅広い市民・団体の参加で、地域の暮らしことや働くこと、コミュニティのことを、学び合い、語り合う場をつくり、まちづくりや地域での協同がすすむように活動している。会員には研究者や専門家とともに、生協、農協などの協同組合の役職員や組合員を始めとして、多彩な市民が個人会員として参加しており、活動は、コープぎふ、コープあいち、コープみえ、農協や医療生協、大学生協、労働者協同組合、福祉協同組織、生産者などが団体会員となり支えている。県域を越えた協同組合陣営のローカルシンクタンクの先駆事例として、これまでの歩みを報告するとともに、ナショナルレベルでの連携に対する意見も表明したい。

・ **第3報告「3.11から5年半、協同組合間協同とともに歩んだ福島**

—地産地消ふくしまネットから」(仮題)

報告者 林 薫平 氏 (福島大学 特任准教授)

(報告内容 (予定))

福島県ではIYC以前より異業種による協同組合間協同が活発であった。95年環境保全ネットワークふくしま、98年ふくしま大豆の会、08年「地産地消運動促進ふくしま協同組合協議会(正式略称:地産地消ふくしまネット、幹事団体:JA福島中央会、福島県漁連、福島県森連、化に向けた連携へその運動を深化させ、震災後は「絆で復興!ふくしまSTYLE」をスローガンに協同組合間協同による復興を進めている。本稿では上記の他、運動を学術的に支えている福島大学の協同組合研究関連組織の変遷と、農学系人材育成機関の設置に向けた動きも含め、報告したい。

(注) 上記報告内容(予定)は、JC総研事務局から各報告者に依頼した内容です。

実際の報告内容と異なる可能性もありますので、あらかじめご承知おきください。